

Group B 幼児の心理学 Children psychology

Group B member 藤代純希 宮古麻里奈 増成謙汰郎

■ 概要 Overview

Bグループでは幼児(ここでは3~6歳と定義する)の発達心理学を用いて、育児の手助けができる教材の作成を目標としていた。そして原著論文や書籍を元に、幼児の発達心理学についてまとめたホームページの作成を行った。

■ 活動内容 Activity contents

グループBは以下の3つの分野に分かれ調査結果からトピックを作成し、誤った記述を行っていないか担当の教授方に内容を確認してもらいながら追加の調査とホームページの改善を行った。下の3つはBグループの最終的な調査内容の一部である。

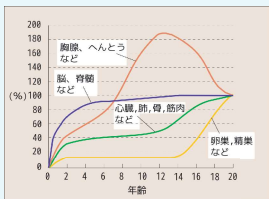
■ 最終成果 Final product

■ 身体的な発達心理学

幼児の体の変化

● 運動神経を良くするには？

運動をする人間に対して運動神経が良い・悪いという話題が上がる。運動は全ての動作に強く関係している重要な要因であると言える。その運動神経が生後からおよそ20歳にかけて飛躍的な成長が見られる期間があることを知っているだろうか。それを急発達期と言い、その急発達期を知ることにより効果的な育児や将来のスポーツ選手育成に期待が持てる。

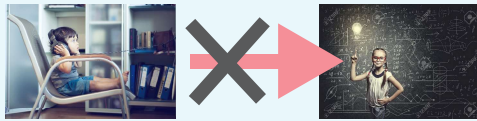


■ 発達心理学における俗説

育児の言い伝え

● モーツァルトの音楽を聴いた子供は頭が良くなるのか？

モーツァルト効果とはモーツァルトの音楽を聴いた子供は頭が良くなるというものだ。結論から言うと、モーツァルトの音楽を聴いて継続的に頭が良くなるということはない。また、他の研究によると同様の効果を得るにはモーツァルトの音楽である必要性はない。



■ 認知的な発達心理学

成長していく幼児に対する疑問

● ごっこ遊びは発達に重要だった

幼児はごっこ遊びを通して社会勉強をしている。ごっこ遊びは幼児になると自然に発生するものであり、この行動はできたての象徴機能の一部である。子供は自身の常識(スキーマ)を他の子供と交流することで常識を調節したり、同調することで世の中を理解していく。

■ 象徴機能とは

ウサギの写真とぬいぐるみのウサギを同じウサギだと考える機能



■ ホームページ Home page

Bグループのホームページでは知っている知識や、実際の育児に役立つような内容をまとめている。上で紹介した以外でも「**利き手は矯正したほうがいいのか**」や「**睡眠が心身に与える影響**」についてなど子供を持つ親だけではなく、学生や一般の方も興味を引いてもらえそうな内容になっている。

Bグループホームページ画面

pp.1



pp.2



■ 展望 Prospect

課題: トピックの調査が難航し外部公開できなかったため、外部からのフィードバックが受けられなかった

→外部公開しフィードバックを受け、それを元にサイトの改善や更なるトピックの追加を行う